

劇団いちびり一家 第22回公演 上演台本

ゴロニヤーゴ

作 阪上洋光

2019年10月11日～13日上演

会場 浄土宗應典院本堂

登場人物

真坂真	・	・	橋本浩明
ヤミクモ	・	・	石本由宇
アニキ	・	・	今井亜紀
ネオキ	・	・	吉井希
パー子	・	・	三穂真理子
院長	・	・	酒井佑綺
パジヤマ	・	・	和田亞弓

コート of 女たち . . . 阪上洋

光・他

1、

雨の音が聞こえていた。そこはどこまでも壁が
続く路地。

——やがて雨は止む。置き忘れられたように紙
袋がひとつ。

そして、それを覗き込んでいる男、真坂がいた。

真坂

(何かに気が付いた様子で振り返る) ゴロニャーゴ?

音楽——。

そっくりな紙袋を持った七人の女たちが行き交

う。

女たち

(口々に言う)紙コップを買ってください。パー子の紙コップ。
一個三百円——。

「雨があがって」

その声はどこから聞こえてくるのだろうか?

その声はだれを呼んでいるのだろうか?

あの日々はいつから始まったのだろうか?

あの日々はどこへ流れていくのだろうか?

雨があがって 明るい 明るい遠くの空

傘をしまつて 歩く 歩くぬかるんだ道

風が変わって 戸惑う 戸惑いながら進む

振り返らないで 雨はうしろで降っている……
振り返らないで 雨はうしろで降っている……
いま 目的地を手放せば 道に迷うこともなく

その声はどこから聞こえてくるのだろうか？

その声はだれを呼んでいるのだろうか？

あの日々はいつから始まったんだろう？

あの日々はどこへ流れていくのだろうか？

坂をあがって 弾む 弾むわたしの息

町を見下ろし 笑う 笑い声が見える

空に向かって 語る まるで独り言のように

振り返らないで 雨はうしろで降っている……

振り返らないで 雨はうしろで降っている……

ほら 目的地を手放せば 道に迷うこともなく

真坂は女たちに取り囲まれた。

女たち

いい加減にしてよね！

女1

超コワイんですけど。

女2

笑ってません？

真坂

笑ってません。

女3

楽しんでません？

真坂

楽しんでません。

女3

人呼びますよ。

真坂

でも、だって……。

女たち

（悲鳴と警戒態勢） だから、違います！

真坂

参ったなあ……。

女1

（真坂に） あなた……。まさか……。

真坂

え？ あ、そう。君がそうなのか？

女4

（真坂に） なんでアンタも歌うの？

女5

（真坂に） そういうところ。そういうところも嫌。不気味。

女6

（真坂に） まさか！

真坂

え？ あ、はい。

女6 (真坂に)マジで? 探偵? 興信所? なに?

真坂 え? いえ。そういうわけじゃ。

女7 じゃ、どういうわけ? 説明してみ。

女たち まさか!

真坂 待って。真坂です。

女たち はい? マサカ……さん?

女4 会社の方ですか? 同僚とか? お友達?

女2 違うわよ。変質者かも。だっておかしい。わたしたちが 「まさ

か!」 つていう

度、アンタ、自分の名前が呼ばれたと思ったってこと? そんな

なのある?

女3 そんなわけない。変質者に違いない。ある? なに、その勘違

い。

真坂 誤解です! どういえば……。驚かせたのなら謝ります。

女たち (少し待って) どうぞ。

真坂 え?

女たち え! 謝るんじゃないの!

もし、主人に頼まれての尾行なんでしたら。いますぐ戻って伝

えて下さい。

女たち もう関わらないでって。

真坂 ——家を出たんですか? いつ? どこへ行くんですか?

女1 もう無理よ。さんざん話し合いました。

真坂 なんだか一方的だなあ……。

女たち お互いさまでしょ? ゴロニャーゴ。

真坂 ノラだ……。 (と先ほどの紙袋を覗く)

その路地には、紙袋を覗く真坂だけが残されて

2、

真坂

捨てられたのか? そんな目で見るなよ。俺、無理だよ。責任持てない。自信もない。死ぬんだろ? 生きてるってことは。嫌だよ、見送るの。もっと相応しい人が見つけてくれる。それまで、そこで……。心細いよな。でも、モノは考えようでさ。外は危険がいっぱいなんだ。とりあえず安全だよ。そこなら。

——鳴いてたの、お前だろ？ 生まれてすぐ捨てられた？ 引き離された？ お母さんは気付いてる？ いまもお前の事呼んでるかもしれない。どこに行った？ 帰っておいで？ 死ぬんじゃないよ？ それとも、何事もなかったようにじっと座って、しっぽパタパタ。眠っているかもな……。——さてと。

真坂は途方に暮れた様子で辺りを見渡す。

モ) が登場する。
そこに無人の車椅子を押しながら女(ヤミク

モ) が登場する。

真坂は壁の向こうを覗こうとピョンコピョンコ

真坂

(諦めて) やっぱ陸上部に入ればよかった。そしたらきつと軽々なんだろうな……。 (ピョンコと跳ねる) 岸田が悪い。あいつが一緒に演劇部に入ろうなんて。三年間、部室でマンガ読んでた記憶しかない。あ、あと発声練習だってカラオケ行って。そっか。ホントは陸上部に入りたかったんだ、俺。中学でもそうだったんだし。親は続けた方がいいんじゃないかって。ああ、先生も言ってたなあ。自分の直感を信頼して生きる。勇気を持って。岸田のせいだ……。——あのととき、俺……。ちゃんと言えよ。嫌だと言えよ。あ！

ヤミクモ

(目が合った) 目が合った。不審者発見。

真坂

(ニヤリと笑う)

ヤミクモ

ニヤリと笑った。ヤバい奴に違いない。

真坂

(慌てて) いえ。

ヤミクモ

奴は慌てて「いえ」と言った。なんだ？ どういう意味？ 否定のいえ？ それともテンション高めのイエーを控えめにいった？ ハウス？ 家？ 違う。なに？ わたしに何を言えってあの？ わたしは何も言いたくないのに。

真坂

あの？

ヤミクモ

どうしよう？ 見なかったことにしよう。でも、奴の前を通るのはリスクが大きい……。後退る。後退する。選手交代。なんちゃって。ゆっくり、ゆっくりバックオーライ。(くるりと方向転換し、後退し始める)

ヤミクモは結局真坂の前を通る。

真坂 あなの？

ヤミクモ

危機回避失敗。切り抜ける、切り抜ける。——お散歩ですか？
そうですか。わたしもそうです。本当は違いますけど。いま
はお散歩のつもりです。

真坂 入り口がわかんなくって。ここ、この向こう。病院ですよね？

ヤミクモ

わたしが決めるんですか？ 言わせるんですか？ こ
の向こうになにがあるか？

真坂 はい？

ヤミクモ

違います。わたし、ナースです。この病院の。本当は入院して
るんですけど、もう長いんで。だから、ほとんどナースみたい
なことしてるんです。

真坂

参ったな。わたし、妻を探していました。

ヤミクモ

わたしもそうです。いえ、妻は探してません。いえ、娘です。
いえ、副作用なんです。

真坂

お薬？

ヤミクモ

漏れちゃうんです。すぐに漏らしちゃう。違います。おしっこ
じゃなくて、ことば？ 考え？ 思ってること。ダダ漏れ。び
ちやびちや。違います。

真坂 はい？

ヤミクモ

これは娘のじゃありません。

真坂

車椅子？

ヤミクモ

院長のお母さん。娘が見当たらないので探していたら、院
長もお母さんを探してらして。院長のお母さんも入院されてる
んです。特別室にです。ちようどいいからって。娘探すついで
に引き受けました。

真坂

そうなんですな……。参ったな……。

ヤミクモ

（笑う）漏れますよ、びちやびちや。あなたの質問にわたし
がちやんと答えないから？ あなた困って？ 参ったなあつ
て？ でも、こいつビョーキだしみたいな？ 参ったなあって！
まさか！ そんなつもりじゃ。さつき、俺の事不審者だってお
っしやいました、その少し前までは俺、変質者だったんです。
参ったな。

ヤミクモ

お名前は？

真坂 マサカマコト。

ヤミクモ

マサカ？

真坂

真実の真に、上り下りの坂。真実の真。真坂真。上から読んで
も真坂真。下から読んでも真坂真。嘘か真か、真坂真。

ヤミクモ

嘘から出たまこと、なら知ってます。よござんず。探しましよ。う。ついでにあなたの奥さん？ 探しておきます。急ぎますので。わたし、ナースのヤミクモです。みーちゃん！ どこお？

ヤミクモは後退しながら退場する。

真坂

ヤミクモさん！ 俺の名前だけで？ それでなにが判るって…。参ったな、飼い主探しも頼めばよかった。

真坂は先ほどの紙袋を覗く。

真坂

逃げたのか……。

少年風（アニキ）が、杖を突いて登場。

真坂

え？

アニキ

なにが逃げたって？

別の方向から、同じく少年風（ネオキ）が点滴打ちながら登場。

真坂

うそ？

ネオキ

逃げてるのはアンタじゃないのかって話だよ。な？

真坂

また妙なのが出た……。

アニキ・ネオキ

あなたは神を信じますか？

真坂

うんうん、ねえ。君たち、この病院の？

アニキ

なにかお困りですか？

真坂

まあ、人並みに。

ネオキ

あんたさあ、人並みなわけ？

アニキ

院長は馬並みだっけ。な？

ネオキ

聞けば、見せてくれるよ。な？

真坂

なにを？

アニキ・ネオキ

ナニを。（真坂の股間を触ろうと追いかける）

真坂

（逃げる）見たくないよ。

アニキ

なんで逃げる？

ネオキ

触らせる。

アニキ・ネオキ

ここで何してる？

真坂 猫がさ、ここに捨てられてて、
アニキ え？ どこ？
ネオキ かわいい？ 赤ちゃん？ どこ？
真坂 その紙袋の中に、

アニキとネオキは紙袋を覗く。ネオキは泣きだす。

真坂 いや、だからそこには、
ネオキ、ネオキ。なんで泣くんだけ？
ネオキ (泣きながら話すので全く判らない)
アニキ ネオキは猫、好きだもんな。
真坂 まさか！ いる？ いた？

ネオキ (真坂に向かい泣きながら何かを強く訴えるが判らない)
真坂 (覗いて) やっぱりいないじゃないか。

ネオキ アニキい……(胸を借りて泣く)
アニキ 出会い頭だろ？ お前通り魔か？ 無差別か？ いきなしなんだもんな。
真坂 それはこっちのセリフだよ。

ネオキ (真坂を指差し) 騙した。(自分を指差し) 騙された。かわいい
ネオキ そうなのどっち？

真坂 どっちって……、
アニキ 逃げるのか？
真坂 え？ いや、だから。逃げたのは猫。

ネオキ ほかには？(真坂は答えられない)——黙秘権を認めます。
アニキ 嘘つき。こんな大人にはなりたくない。よし、帰って日記につけておこう。

真坂 参ったな。騙すつもりなんてなかった、嘘は言ってないんだ。
アニキ 往生際が悪い。重症だな。

ネオキ 客観性ゼロ。ナルシストも度を越せばビョーキ。
真坂 さっきまではここにいた。この中に。君たちが来る少し前。逃げたんだ。

アニキ (紙袋を覗き) オジサンは、この中に猫がいたような気がする
真坂 そうじゃなくて、
ネオキ おや？ どっちに逃げた？ あっちか？ こっちか？ どっち？

真坂 見てないんだ。俺の知らぬ間に。

ネオキ アニキ。(真坂に視線を向けたまま、アニキに耳打ちする)

アニキ (ニヤニヤしながら話を聞いている)

真坂 もう、あっち行けよ。俺に構うな。——なあ、ひとつお願いがあるんだけど。

アニキ (真坂に) しー(と唇に指を当て、黙るように促す)

真坂 案内してくれないかな？ 入り口。壁沿いに歩けども歩けども。

アニキ (ネオキに) 判ってるよ！ 知ってるよ！ バカにすんなよ。ごめんなさい。

アニキ あ！ バカにしてください。ごめんなさい。

ネオキ ううん、ごめんなさい！

アニキ とんでもない。ごめんなさい。

ネオキ そんなことない。ごめんなさい。

アニキ もっとバカにしている。だって俺バカだから。

ネオキ 俺、バカのくせにアニキにエラソーに。

アニキ いや、お前まだ賢いところがある。

ネオキ やめる！ そんなことない、俺バカがいい。(泣く)

アニキ わかった。ネオキはバカを指摘す程度にはバカだ。

ネオキ え？

アニキ 俺はバカ目指さなくていいくらいの、充分なバカなんだ。

ネオキ そんな！ ずるい！ オジサン、どっちがバカに見える？

アニキ バカ！ バカは見た目じゃわかんないだろ。

ネオキ オジサンはバカじゃないだろ？ どっち？

真坂 参ったな。

アニキ オジサンが決めるの？ どっち？

真坂 ワカラン！

アニキ そんなあ！

真坂 俺もバカなんだよ、人並みに。

アニキ 人並みのバカ。

真坂 ——なあ、連れて行ってくれよ。

ネオキ オジサンは、猫はその紙袋の中にいるといった。

真坂 だから、それは、

ネオキ (制止して) それは猫が逃げたあとだった。だから、猫はいなか

った。

真坂 え。そう、とても嬉しい。話を通じるこの感じ。とても久しぶ

りな気がする。

ネオキ 問題は、猫がいないと知りながら、俺たちに紙袋を覗かせたこ

と。

アニキ
笑ってた。

真坂
笑ってなんか、

ネオキ
笑ってました。二対一。

真坂
笑ってません。

アニキ
笑ったこともわかってない。自分では笑ってないつもりだった
だけだろ？

真坂
言いがかりはよせよ。

アニキ
オジサンは猫は逃げたといった。

真坂
そういった。だって実際、逃げたんだ。さっきまで紙袋の中で。

アニキ
でも、逃げるところは見えていない。だから、それはオジサンの

想像だろ？

真坂
想像って……。想像だけど、いいかい？ 空想や妄想で言っ

るわけじゃない。

ネオキ
認めちまえよ、認めちまえば楽になるから。

真坂
確かに逃げたのは……。でも猫はいたんだ。——案内して欲し

い。俺、病院へ行きたいんだ。

ネオキ
認めるんですね？ 入院ですか？

真坂
そうじゃなくて。妻が運ばれた。突然救急車に乗せられて。ピ

ーポーポーポー。

アニキ・ネオキ ほう。

真坂
真夜中だった。遠くで猫が鳴いていた。救急車のサイレン。突然ドア
がノックされ、あつと言う間に妻は白いヘルメットの男たちに。

妻はパジャマのまま外に行くことを恥ずかしがっていたけど
……。急かされて、急かされて。紙袋ひとつ持って搬送された。

なんで？ 一緒に行けばよかったのに。

すぐに帰ってくると思った。動揺してたのかもしれない。——
言えばよかった。俺。その時に言えばよかったんだ。嫌だと。

連れていくなど。わけわかんないよ。調べて、ここに辿り着い
た。何か手の込んだ誘拐かも知れないだろ？ でも確かに救急

車は要請を受けて出勤し、搬送した。この壁の向こう、この病
院のどこかに妻はいるはずなんだけど。——聞こえてる？ な

んか言えよ。

アニキ
不安なんだな。正解が判んなくて。

ネオキ
大丈夫、俺たちもそうだった。パー子に会うまでは。

真坂
なに？ パー子？

アニキ・ネオキ 教祖。

音楽。

アニキ・ネオキ 噂をすれば影――。

壁の上にパー子が登場する。

パー子 ご紹介に預かりました。アタシが教祖。クルクルパー子です。

『示さい声』

まどわされないでね

似ているものばかりなんだって

世界はうりふたつ

あなたとわたしも

だって そうでしょ？

急ぎすぎちゃだめよ

急いではことをしそんじる

時間はうそつきよ

きのう きょう あした

ほらね そうでしょ？

壁の上に新たにパジャマの女が登場し歌に加わる。

もっと楽に生きてもいい

きつと喜びだけが真実なんだ

もつとズボラでかまわない

きつとわたしたち欲張りすぎたのね

ヤミクモがナース姿で戻ってきて、真坂を車椅

子に乗せて逃亡。

アニキ・ネオキ 逃亡！ 逃亡！ 共犯者がいる模様！

パー子 追いかける！ 追いかける！

アニキ・ネオキ 追いかける！（退場）
パー子 大丈夫。みんなでおバカになりましょう（退場）

パジャマがひとりで歌う。

ひとりぼっちでいてね
鏡のまえに立つときだけは
すべてはまぼろしなの
ゆっくりふりかえる
そのとき なに見える？

壁の上に院長が登場し、歌に参加する。

もつと楽に生きてもいい
きつと喜びだけが真実なんだ
もつとズボラでかまわない
きつとわたしたち欲張りすぎたのね

3、

ここは病院の一室のつもりらしい。しかし、それは壁の上の出来事にも見えるらしいのだ。パジャマは窓の外を見ている。院長はパジャマを見ている。パジャマの手には紙袋がひとつ。

院長 イップセン！（くしやみをする）院内感染かな？
パジャマ 何階ですか？ ここ。まるで展望台。
院長 続き。やりますか？ やるならお手伝いしますが。
パジャマ どっちの？ — ああ、お芝居の。
院長 どっちのって？
パジャマ 見てたんです。
院長 窓の外？ その展望台から？
パジャマ 羽目殺しの窓の向こう。ぼんやり眺めながらわたし、
院長 眠れなかつたんですか？ ボクもですよ。
パジャマ わたしはいよいよビョーキかもしれない。
院長 ノラたちがお盛んでしたからね。昨夜はあっちでもこっちでも。

パジャマ わたしね。ここで、こうして立ったまま見てました、夢を。眠

りから解放された夢——、目覚めたまま夢を見るなんてことありますか？

院長 珍しい症状ではありませんね。

パジャマ 症状。

院長 あまり気にしない方がいい。寝て見ようが、起きて見ようが夢は夢。それが夢だと判っているなら、やっぱりそれは——。ええ。夢は夢のままですから。

パジャマ 病院で飼ってるわけじゃないんでしょう？

院長 勝手に住み着いたんですね。不衛生だから始末しろって声もある。かわいそうだ。特に問題があるわけじゃないんだからこのままでもいいって声もある。

パジャマ どうするの？

院長 善処します、とどちらにも答えています。

パジャマ 善処します、か……。

院長 良くも悪くも、気になる人だけが気にするわけで。気にならない人にしたら、居ないみたいもんでしょ？ 猫なんて。——どうします？

パジャマ わたしは……、気になりません。

院長 お芝居。『天形の家』でしたっけ？

パジャマ イップセン！（くしゃみをする）

院長 「おまえはもう僕を愛してはいないのだ。」

院長 「はい。そのとおりですわ。」

パジャマ 「ノラ。——そのまま言うのか！」

「あなた、それを言うのはわたしだかってつらいのですよ。あなたはいつもわたしにやさしくしてくださいましたもの。でも、どうしようもないのですわ。わたしもうあなたを愛してはおりません。」

院長 「（かろうじて気を落ち着けて）それもはっきりとした、確かな結論なのだな？」

——。

どうしました？ セリフ忘れた？

パジャマ 変なんですもん。

院長 ぼくが間違えましたか？（ポケットから戯曲を出して確認する）

パジャマ 隠したってダメなんです。わたしには判ってた。でも、本人の口から聞きたかったし。だから、黙ってました。おかしいでし

院長 よ？ 夫の隠し事に気が付いて、今度はわたしがそれ隠してる。
院長 そんなセリフありました？

パジャマ 「あなた、それを言うのはわたしだってつらいのですよ。あなたはいつもわたしにやさしくしてくださいましたもの。でも、どうしようもないのですわ。わたしもうあなたを愛してはおりません。」

院長 戻った？ あれ？ どこだ？（戯曲をペラペラめくって探す）

パジャマ パジャマじゃ変でしょ？

院長 衣裳も用意して？ 本格的にやっちゃいますか？

パジャマ

夫は、どうやら仕事を辞めたらしいんですね。それでも毎日、定時には家を出ます。わたしはお弁当を持たせました。たまの日曜も仕事だと家を出ることもありました。お給料だけは振り込みから給料袋。手渡しになりました。今どきありますか？ 会社の都合だと彼は言ったと思います。わたし詮索しませんでした。追い詰めなくなかった。だって、このお金。ねえ？ どうやって彼はお金を用意したと思いますか？ きっとなにかバイトして。慣れない肉体労働かもしれない。そう思えば、もう少し彼の嘘に付き合おう。それは愛でしょ？ でも、どうしてそこまでするんだろう？ わたしはすっかり疑惑の虜。ほかに女ができたのなら。彼がもしそれを正直に告白すれば、大人しく離婚に応じよう。そこまで考えて、ひとりで泣いたことだっでありました。夢の中のわたしは不安でした。——結局問いたですことはせず、わたし賭けに出ました。

院長
パジャマ

間違はなく、すべて夢の話です。引越したいと言いました。彼は「そうだな」と答えました。彼がノーと言わないことは判っていたのに。少し意地悪だったかもしれません。それでも私は新しい部屋を探し始めました。仕事の合間に不動産屋にも通いました。わたしは見つけました。家賃は少し上がるけれど、この先もし子どもができて、そこでしばらく暮らしていけそうな、いい部屋。わたしは、そこに決めてもいいか彼に訊ねました。「任せるよ」一度内見一緒に行こうよ。「でも」でもなに？ 「気に入ったんだろ？」うん。「じゃ、そこがいいよ」——ねえ？ 引越したよ？ 「引越すんだろ？」ふたりの話だよ。「そうだな」生活が変わるんだよ？ 「そうだな」変えるんだよ？ 「うん」判ってる？ 「見積もり出たらまた教えて」——わたしは管理会社に退去の意思を伝え、わたしが引っ

院長 越し業者に依頼し見積もりを取り、日取りも決まって、あっと言う間にふたりの部屋には段ボールの山ができました。だからそれ……。

はい？

院長 全部、夢の話なんですよね？ ——え？ ちょっと実話も交えてますか？

そうなんでしょうか？

どうなんでしょうか？

院長 あの息苦しさ——。特別じゃないでしょ？ どこにでもいる夫婦の日常。珍しくない感情の起伏。後になったら思い出すことさえ困難だろうささやかな……行き違い？ なんてこともない暮らし、そのワンシーン。院長、これは夢なんでしょうか？

院長 どれ？ どれが夢？ 煮え切らない夫？ それとも、その窓から見える風景？ 昨夜のノラのラブシーン？ まさか、わたしとのこの劇の練習？

わたし、ここに長く入院しているんですけどね。

院長 短くはないと思いますが、ま、時間の感覚なんて人それぞれですから。

パジャマ わたしが家を出たのは、そう……。つい昨日か、一昨日なんです。

え？ そうなんですか？

院長 真夜中でした。遠くで猫が鳴いていて。救急車のサイレン。突然ドアがノックされ、あつと言う間に。わたし、白いヘルメットの男たちに。恥かしかつた。パジャマのまま。急かされて、急かされて。紙袋ひとつ持って搬送された。これ、そのときに持って出た紙袋です。

つまり。数日前に？ あなたはこの病院に搬送されたばかり。

そういうことになりますよね？

それじゃあ、わたしはどうしましょう？

おしゃってください。

院長 この数か月、だれとこの部屋で。わたしは、この『欠形の家』を？

パジャマ 院長。それはお芝居のお話でしょ？ ——それはお芝居じゃありませんか？

そうだけど。

パジャマ 院長 お芝居と現実を……つちやにしちやダメですよ。

院長 なるほど。

パジャマ わたしは真面目に話してるんです。生活の話です。
なるほど。

院長 パジャマ 人生の話なんです。

院長 はい。

パジャマ あの息苦しい——、夫との暮らしの話をしているんです。
す。

ヤミクモの声 院長。（登場する）

院長 ああ、ヤミクモさん。

ヤミクモ ちよっと、お話ししたいことがありまして。

院長 急ぐ？

ヤミクモ わりかし。

院長 見つけた？

ヤミクモ たぶん。

院長 えーっと。みーちゃん？

ヤミクモ みーちゃん？

院長 ん？ みーちゃん。

ヤミクモ 猫？

院長 娘さん。——あ、お母さんだ。

ヤミクモ 猫の？

院長 わたしの。

ヤミクモ 残念ですが。それはまだ。

院長 あ、そう。見つかってないの？

ヤミクモ 善処します。

院長 ご苦労さま。で？

ヤミクモ こちらは？（パジャマを気にしている）

院長 見つかっちゃったな。

ヤミクモ はい？

院長 こっそりさ。密会。練習だよ。

ヤミクモ はい？

院長 創立記念祭。お祭りで。驚かそうと思って。

ヤミクモ こちらは？

院長 ノラ。知らない？ 人形の家。演劇。

ヤミクモ （パジャマに）真坂さんですよね？

パジャマ はい。

ヤミクモ やっぱり。

院長 あれ？ 知ってるの？ そっか、二人とも長いもんね。

ヤミクモ

パジヤマ

ヤミクモ

ナースのヤミクモです。
真逆真です。

知ってます。わたし、探してみました。あなた、探されて
ました。

なに？ ヤミクモさん、きょうは真逆さん、探してたの？

わたしを探しているのはヤミクモさんじゃないと思
います。

やっと見つけた。

ヤミクモ

ヤミクモさんが探してたみたいよ。

ヤミクモ

違います。

院長

違うの？

ヤミクモ

違うないけど、違います。

院長

え？

いえ、だから。わたしは真坂さんを探していましたが、
わたしが探したかったわけじゃありません。

院長

え？ じゃあ、ヤミクモさんはだれを探してるの？

パジヤマ

ちよつと。——ややこしくなるから、院長。

ヤミクモ

お口チャックで。

院長

（お口にチャックする）

ヤミクモ

やっと見つけた。

パジヤマ

来てるんですか？ 来てるんですね？ わたしには

わかるんです。

ヤミクモ

真実の真に、上り下りの坂。真実の真。真坂真。上から

パジヤマ

読んでも真坂真。下から読んでも真坂真。嘘か真か、真坂真。

ヤミクモ

あれ？ おしい。ちよつと違います。

パジヤマ

うそ？ なんで？ どこが？ 真実の真に、上り下りの坂。

ヤミクモ

違います。

パジヤマ

なんでよ！ あなた、真坂真でしょ？

ヤミクモ

そうです。

パジヤマ

そうですよ？

ヤミクモ

真実の真に、逆さまの逆。

パジヤマ

逆さま？

ヤミクモ

ほら、反逆の。

パジヤマ

逆上がりなの？

ヤミクモ

そう。正夢、逆夢の。

パジヤマ

ああ、逆走の？

パジヤマ

はい。

ヤミクモ 真っ逆さまに？

パジャマ 堕ちてデザイア。

院長 中森明菜！ 阿木燿子だな。

ヤミクモ しゃらくせえ。嘘から出たまこと。なんでもいい。逆もまた真なり。

パジャマ

わたしです。わたしが真逆真かと問われれば、答えはイエス。わたしは真逆真。上から読んでも真逆真。下から読んでも真逆真。嘘か真か真逆真。実しやかに真逆真。お待たせしました。わたしが真逆真です。

ヤミクモ 多少の違いはご愛敬。見つけた！ 真逆真、会わせたい人がいます。

彼はわたしに打ち明ける気になったのかもしれない。

彼はあなたを問い詰めるつもりなのかもしれない。

だれが来てるの？ 面会？

夫——。（窓の向こうをぼんやり見つめる）

夫？ 夫ってまさか。真逆さんの？

ええ。いま、食堂で待ってもらってます。

なんで？ どういうこと？

バカだなあ。妻が入院している病院に夫が見舞いにくる。なんの不思議もない。特別優しい夫ってことにもならない。来るでしょ？ いいえ、来るべきよ。

（パジャマに）会うの？

来るべくして来たんですよね？

ごめんなさい。わたし、最初、ちよつと疑って。第六感？ 直感的になんだか怪しい。そんな奇妙な男に思えて。

直感が正しいんじゃない？

でも、確認したらば。言う通り、確かに「真坂真」は入院してた。

会えるんでしょうか？ 本当に。

難しいことじゃないと思うけど？ これから、わたしと

一緒に食堂へ行く。

その人、いま食堂にいるのね？

コーヒーを。紙コップの。わたしがご馳走しました。恐れ入ります。

ねえ、ねえ、ねえ。その人、ほんとに真坂さんの夫だつて？

妻を探していると。妻をというんだからそれは夫でしょ？

わたしがおかしいの？

ヤミクモ

パジャマ

院長

ヤミクモ

パジャマ

ヤミクモ

パジャマ

ヤミクモ

院長

パジャマ

院長

ヤミクモ

院長

ヤミクモ

院長

パジャマ

ヤミクモ

院長

ヤミクモ

パジャマ

ヤミクモ

院長

ヤミクモ

パジャマ

院長

ヤミクモ

パジヤマ

いいえ。

ヤミクモ

困ってらっしゃった。相当に。それでわたしお手伝いすることになりました。わたしがおかしいの？

院長

いいえ。

ヤミクモ

だから、名前を。「真坂真」あなたでしょ？

パジヤマ

わたしたち、引越すんです。やり直すんです。

院長

——真逆さん。だって、それは

パジヤマ

でも、だって！ 夫が来てるんです。わたしを探して…

…。

ヤミクモ

密会。——そういうこと？ ありやいや。もつれちゃっ

院長

た？

ヤミクモ

もつれるよ。こんがらがる。パニック寸前。

院長

修羅場になる？

院長

なにが？ 面白がつてる？ やめてよ。違うからね。引越掻き回さないでね。

ヤミクモ

八つ当たり。女は強いね。真坂さんなんて慌てる様子も

パジヤマ

見せないもんね。

ヤミクモ

そうですか？ わたし、動揺しています。呼吸も浅くて。

パジヤマ

こうして立っているので精一杯。そう見えませんか？

ヤミクモ

ぜんぜん。ねえ、いつから？

パジヤマ

いつからなんだろう？

ヤミクモ

長いの？

院長

（ヤミクモに）違います。

ヤミクモ

（院長に）捨てられるんじゃない？ ——馬並みらし

パジヤマ

いね。噂になってる。

パジヤマ

わたし、彼の嘘に付き合おう。自分の感情押し殺し。

パジヤマ

いつも、なんでもないような顔で。嘘ついて。彼はわたしの嘘

パジヤマ

に気付かない。それは当然のことだったかもしれない。だって

ヤミクモ

そうでしょ？ わたしは女優なんだし。

パジヤマ

そうなんだ？

ヤミクモ

昔ね。それで、院長にせりふのお稽古を。院長って、ち

ヤミクモ

よっとなに言ってるかわかんないとこあるでしょ？

パジヤマ

支離滅裂なんだよね。情緒不安定。——行きましょう。

パジヤマ

女優さん。

ヤミクモ

パジヤマじゃ変？

パジヤマ

ちようどいい。病院でドレスの方がどうかしてる？

パジヤマ

わたし、うまく妻を演じられるかしら？

ヤミクモ

ちようどいい。あつちは下手よ。夫に見えない。自分でも言ってた。俺は不審者で、その前は変質者だったって。——
ユニークな方ですね。

パジャマ

そういうところが好きなんだと思います。

ヤミクモ

ミステリアスだもんね。得体が知れない？

院長

(窓の外眺め) 雲行きが怪しくなってきた。

ヤミクモ

院長、諦めが肝心。引き際、去り際。潮時です。

院長

雨が来る。ねえ、ヤミクモさん、

ヤミクモ

(パジャマを見て) なに、その恰好？

パジャマは、紙袋からコートを取り出し着込ん

でいる。

パジャマ

わたし、この部屋を出ます。

ヤミクモ

似た者夫婦。案内します。

ヤミクモとパジャマは去る——。

4、

もうこの頃には、壁は変形し内側と外側はひっくり返っている。どこまでも続く壁の路地は、今や迷路のようになっている。そこに登場しているのは、少年風から少女風に変質したパジャマ姿のアニキとネオキ。そして、車椅子を押すパー子。乗っているのは目隠しされた男、真坂だ。

院長

(窓の外を見たまま) 無理は禁物——。はて？ 夢の住人が夢を飛び出し、会いに来た。そんなバカな。まるで漫画だ。——
あ、パー子。あいっら。また猫いじめて。気にしなきゃいいのに。気にするから気になるんだって。そっとしておいてやりやいいのに——。パー子に貰った紙コップ。ホットラインだったかな？ 俺、失くしちまつてるなあ。雨が来る。雨になる。黒い雲が町を覆う。

院長が歌う。

「雨の猫」

降り注ぐのは愛でしょう
もうすぐ雨が降るでしょう
ぼくは雨を待っている
空は怪しく 雲はみるみる
行き場をなくした猫が走ってゆく
行き場をなくした猫が走ってゆく
ぼくは雨を待っている

院長はしばらくそこで窓の外を見ている。
パー子は院長の歌うの凝視していた。

パー子

マスター！ わたしにも。おかわり！

パー子が歌う。

準備不足でちようどいい
肩の力も抜いていい
愛はあなたが持っている
いつもそれなり 逆もまた真なり
雨を探して猫が走ってゆく
雨を探して猫が走ってゆく
愛はあなたが持っている

ふたりで歌う

行き場を失くした猫が走ってゆく（雨を探して）
行き場を失くした猫が走ってゆく
愛は（愛は） 愛は 愛は待っている

真坂

顔を見れば思い出します。だから、これ——。目隠し。外していいですか？（だれも何も答えない）もう一度、声。声を聞かせて欲しい。そうすれば、俺。ぼっちし。はい。思い出す。言

い当てる。過不足なく。答える。どうして黙るんです？ どうして？

パー子たち ——ゴロニヤーゴ。

真坂 妻の声を。そこにいるんだろ？ 頼む、目隠し、外して欲しい。

パー子たち ゴロニヤーゴ。

真坂 なんの真似だよ？ ——猫？ 猫の真似？

パー子 ゴロニヤーゴ。

アニキ ゴロニヤーゴ。

ネオキ ゴロニヤーゴ。

真坂 バカバカしい。

パー子たち ゴロニヤーゴ。

真坂 猫はゴロニヤーゴとは鳴かない。

パー子たち (愉快に笑う)

真坂 何がおかしい。イカレてる。頭おかしいんだ、どいつもこいつも。

パー子 ずっと。あんたがしゃべってたから。

アニキ 聞いていた、アタシたち。

ネオキ そう。聞いていた。あんたの話。ゴロニヤーゴ。

真坂 そこにいるんだろ？

パー子たち いるよ。

パー子 みんないる。いつも一緒。ひとりにはさせない。ひとりにはなれない。

ネオキが黙って真坂の手を取る。

真坂 これは君か？ そうなのか？(ネオキの手が逃げる)

アニキが黙って真坂の手を取る。

真坂 だれ？ ——この感触は、(アニキの手が逃げる) 待って！

パー子が黙って真坂の手を取る。

真坂 君なのか？(パー子の手が逃げる) 声を……。声を聞けば。

パー子たち (囁く) あなた……。 (真坂から離れる)

真坂 (車椅子から立ち上がる) 一緒に帰ろう。

た。　　パー子たちは、真坂を強く押し、椅子に座らせた。

真坂
パー子たち

（何かに耐えながら）……妻に何をした？

（真似て）妻に何をした？

（小さく笑う）俺、いま。一緒に帰ろうって言ったけどさ。どこに？ どこに帰る？ 俺、聞いてなかった。住所。新しい部屋。なんだっけ？ 今より陽当たりがよくって？ なんだっけ？

近所に学校があつて……。郵便局が目印。違う。有名なケーキ屋？ 違う。なんだっけ？ 俺、聞いてなかった。君は教えてくれたのかな？ 俺が忘れちゃったのかな？ 違う。俺、聞いてなかった。……俺たちの荷物は全部、あの部屋から救出されたよ。もう空っぽになつたよ——。なんだっけ？ 真夜中。

君が救急車で運ばれたあと。——そう、朝が来て。鳥が鳴いて。妙に眩しい朝だったけど。君はいなくて。俺だけ残して。段ボールの山の中。朝が来て、鳥が鳴いて。妙に眩しくて。見知らぬ男たちがやってきて。意味のない爽やかな笑顔で、どんどん段ボールを運び出す。今日だったんだ……。『運んじやいますね』「今日、大安でしょ」「天気も来週から崩れるらしくって」

「引越ラッシュユです」「ありがたいっすけど」——俺、疑った。最初。全部、君が仕掛けた悪戯なんじゃないかって。俺から離れるために仕組まれたお芝居なんじゃないかって。俺、その時気付いた。カーテンがない。それでこんなに眩しいんだってこと。——俺、好きだったんだよ！ この窓からの眺め。忘れてたけど。違う。違う。違う。どうでもいいことばかり思い出して。俺が今思い出したいのは、君の名前。それだけ。なんだっけ？

パー子
真坂

ねえ、買わない？ 紙コップ。今なら一個三百円。

なぜ、妻はなにも言わない。変だろ？ 変だよ！

ネオキ
真坂

名前、呼んでみたら？

声が出せないのか？ まさか……。俺の妻になにをした！

いきり立ってる。興奮してる。

目隠し、外してくれ。早く！

あんたも好きねえ。

アニキ
真坂

教えてくれ。妻は無事なんだな？（妻に向かい）応えてくれ！

おい、大丈夫か？ 君も目隠しされて？ 俺はここだ。ここに。ねえ、声出せる？ 頼む、聞かせてくれ。君の声、聞

けば俺……。少し安心できる、と思う。

アニキ 君、君、君。キミ？ そうなの？

ネオキ 奥さんの名前はキミ。真坂キミ。

真坂 もうよせ。からかうな。バカにするのはやめろ。わかった。これは仕返しなんだ。遊んでるんだ。陰湿過ぎるよ。俺がさっき、猫がいるって。逃げた猫と紙袋。どうかしてるよ。異常だよ。

——おい、あの救急車。ヘルメットも？ あれも全部お前たちが？ 引越しも！ 答えろ！ わからん。皆目わからん。目的がわからん。俺がなにをした！ どうしてここまで……。

パー子 緊張しないで。堅くならないで。あんたが興奮してるのは、その目隠しのせい？

真坂 そうだよ！ 外せよ。

パー子 ぶー。あ、ピンポーン。

アニキ。ネオキ 逆もまた真なりい。

パー子 あんたは、アタシが履いてたパンストで目隠しされて興奮してる。アタシの臭いやアタシの気配。アタシの温もり。つまり、いま、あんたはアタシに興奮してる。

アニキ。ネオキ この浮気者！

真坂 もう少しの辛抱だ。必ず俺が——。一緒に帰ろう！

パー子 紙コップ！ 大丈夫、聞こえてるから。ねえ、一個三百円。どう？

アニキ 奥さん、怒ってるのかも？ それで。だって名前を忘れられたなんて。

ネオキ 奥さん、泣いちゃって。だって、名前を呼んでももらえない。

パー子 (妻役) あなた。

真坂 その声。君か？ 君なのか？

パー子 (妻役) わたしは大丈夫。無理して思い出さないで。大丈夫。いまはちよっと混乱してるだけ。ゆっくり思い出せばいい。

真坂 顔が見たい。目隠し取って。

パー子 (妻役) だめ。ドクターの許可が必要。

真坂 なんて？

パー子 (妻役) 救急車で運ばれたのはあなただった。(口からデマカセ)

アニキ。ネオキ え！ そうなの？

パー子 邪魔しない！

真坂 俺が？

パー子 (妻役) 焦らないで。それよりも、パー子の紙コップ。一個三

真坂 百円。買いなさい。
パー子の紙コップ？
（妻役） 一個三百円。

真坂はパー子を抱き寄せる。

真坂 君は、俺を残して消えたんじゃない。あの日、救急車で運ばれたのは俺？

パー子

（妻役） 逆もまた真なり。

真坂 俺、混乱してて。動揺してて。なんとかしたくて。いろんなこと忘れちゃって。

パー子

（妻役） 持ってる？ 三百円。

真坂

君なんだね？

パー子

（妻役） 君よ。三百円、ちよーだい。

真坂

ごめんな。俺……。名前。思い出せない。

パー子

（妻役） 三百円、出せる？ ある？

真坂

ある。ごめんな。

パー子（妻役）

買う？

真坂

バカだろ、俺。ずっと君を探してた。

パー子

（妻役） もういい。もう探さないで。ね？ パー子の紙コップ、

真坂

買うんでしょ？

パー子

三百円。

（妻役） そう、三百円。大した出費じゃない。スぺアも買っとく？

真坂

スぺア？ ——小さい。

パー子

（妻役） 小さな出費で大きな買い物。もちろん消費税込みだから。安心ね。

真坂

——こんなに小さかった？

パー子

え？ アタシか？

真坂

こんなに小さかったかな？

パー子

（妻役） おバカさん。小さなことにこだわらないで。大きな男になりなさい。

真坂

筋肉質。

パー子

（妻役） え？ ほら。あれ——。鍛えてる。苦労が多かったから。健康第一。

真坂

健康第一。（強く抱きしめ）俺のせいだな。こんなに小さくな

って。

パー子 (妻役) 走り込んでるから、毎日。すり減ったかな？ 靴底みたいな。

真坂 ごめんな。俺、知らなかった。君がこんな靴底みたいになってたなんて。

パー子 (妻役) うん。靴底ではないけど。——でも、いい。うん。(真坂に体を預ける)

真坂 俺、買うよ。パー子の紙コップ。一個三百円。

パー子 うん。アタシ、しあわせ。

真坂 案内して欲しい。俺たちの新しい部屋。それでさ、一緒にカーテン選ぼう。新しい部屋にふたりで新しいカーテンつけてさ。

——君が気に入った部屋、俺、そこから見える風景を大事にする。今度こそ、今度こそ大事にするから。

パー子 惚れたあ。

ネオキ カバンの中？ 三百円。

パー子 あとでいい。

アニキ お財布は？

パー子 あとにして。

真坂 ポッケ。

アニキ ネオキ ポッケ？

パー子 つきにむらくも、はなにかぜ。邪魔しないで。お代はあとで結構です。

真坂 ズボンのポッケに三百円。確か……(とポッケを探る)

パー子 (制して) このまま。手を離さないで。

アニキ ふたりのお邪魔は致しません。

ネオキ お代はこちらで回収します。

アニキとネオキは真坂のポッケをまさぐる。

真坂はこそばかったらしい。

真坂 いい、いい。自分で出す。(ポッケを探す) あれ？ 空っぽか？

真坂は目隠しを外し、カバンの中を確認する。

アニキ ネオキ おい！ 出してみる！ ちょっと見せてみる。

真坂 ああ、騙したわけじゃないんだ。ほんと。いつもはポッケに小

銭ジャラジャラ。

アニキ ネオキ (手のひらみつめ) 隠してたな？

真坂 — え？

アニキ・ネオキ ポツケの中。

真坂 — 空っぽ。

アニキ 馬並み。

真坂 あ——、

ネオキ 人並みじゃない！

パー子 あら、ヤダ。

真坂 (照れた) ちょっと興奮して。でも、まだマックスじゃないから。

パー子たち 真坂真 With スーパーモンキーズ！(ガッツポーズでは

しゃぐ)

真坂 あれ？ どこいった？

パー子たち どうしたの？

真坂 妻が。(探す)

パー子 はい。(挙手)

真坂 え？ — 君が？

パー子 うん。君よ。

真坂 え？ あ、ない。パンスト。

パー子 アニキ・ネオキ こいつ、ズルむけ。被ってない！

パー子たち こいつ、パンスト被ってない！

真坂 俺は一度もパンストなんか被ってない。(パンスト片手に) これだろ？

アニキ・ネオキ いつの間に！

パー子 返して！ それ、アタシのパンスト。

真坂 俺はこれで目隠しされて。 — お前たちの目的はなんだ？

アニキ・ネオキ 目的？

パー子 アタシはパー子。くるくるパー子。上から読んでも下から読んでもくるくるパー子。開き直る！ アタシは誤解を恐れない！
アタシは飛び込む。目的地はあなた！

パー子は真坂の腕の中に潜り込む。

パー子 好きです。

真坂 靴底。この筋肉質な感触は、お前、靴底！

パー子 やめて！ それは昔の名前。最新版はあなたの妻。

真坂 離れる……。

パー子 (真坂を見つめ) 「緒にカーテン選びましょう。

真坂 すり減って消えろ！ 靴底！(パー子を突き飛ばす)

パー子 騙したの？ また、アタシを裏切るの？

真坂 全部うそだったんだな？ さっきの妻はニセモノ……。

パー子 スペアでもいいから！

真坂 どこに隠した？

パー子 ここにいる。よく見て！ わたしがいる。わたしが妻。

真坂 違う。

パー子 なにが違う？ どう違う？ いいじゃない。アタシがパジャマ

じゃないから？

真坂 —— わからない。

アニキ アタシ、パジャマ。アタシが妻なの？

ネオキ アタシもそうなの？

パー子 パジャマくらいアタシも持ってる。

真坂 わからない。確かにさっき、このくるくるパーを抱いた時、俺

は妻がそこにいると思った。いや、あれは確かに妻だった。

アニキ すり減った妻？

ネオキ 筋肉質な妻？

パー子 わたしがあなたの妻。

真坂 ありがとう。君たちは、俺の妻じゃないだろう？ それは自分

でもわかってるんだろう？ ——わかってるんだよ、君たちは。

自分が誰なのか。——あれ？

パー子たち なに？

真坂 (アニキとネオキに) 随分違う。印象が違う。ほら、最初に出

会った時と。

アニキ そう？ なんだろ？

ネオキ アタシたち、ここんとこずっとこんなだけど？

真坂 そうだっけ？

パー子 アタシたちを捨てて？ まだいない妻を探すの？

パー子は車椅子に腰かける。

真坂 他にすることもないんだな、俺。

アニキ (嬉しそうに) 最低な夫。暇つぶしに妻を探す。

ネオキ 退屈しのぎか。ねえ、一度家に帰ったら？ 案外、家にいたり

して？

真坂 その帰る家がわからない。

アニキ・ネオキ

あちやー。

遠くに。パジャマが立っている。誰も気づかない。

パジャマ

「わたしたち、結婚してからもう八年になります。それでいてあなたはお気づきになりませんの——あなたとわたしと、夫と妻が、向かいあって真面目なお話をするのは今日がはじめてですよ。」

真坂

結婚して八年。あつという間だった。お互い仕事も変わった。俺は二回。彼女は一回。その都度話し合い、自分たちの暮らしを維持する方法を模索してきた。よりよい暮らしを一緒にデザインしているつもりだった。なのに……。彼女は突然引越したいといった。

パジャマ

わたし「ちっとも幸福ではありませんでした。幸福だと思っていただけのことで、じつは少しもそうではなかったのです。」

真坂

もう決めている、そんな顔つきだった。俺さ、なんだか裏切られたような。バカにされたような。段ボールが俺の居心地を悪くした。段ボールが俺の居場所を占拠していった。——息苦しかった。——もしかすると、俺たちの荷物を積んだトラックも目的地を見失い、小さな町の中をぐるぐるくるくる、くるくるくるくる。——もしかすると妻は救急車には乗らなったのかも。しれない。だって、俺見てないんだ。俺は部屋から出なかったから。——白いヘルメットに運ばれながら、妻は不安そうにこっちを見ていた。「一緒に来てほしかった？ そうなのか？ 俺、段ボールの山の中からそれ見送った——。さてと。（どこかへ行こうとするも自分の行くべき方向が判らない）」

パジャマ

「八年の間、わたしはじっとしんぼうして待っていました。奇跡なんでもものが、そうそうざらにあらわれるものではないことは知っていましたからね。するとこんどの災難がわたしの上にふりかかって来ました。」

パー子

アニキ

ネオキ

真坂

今度は出口がわからない。
妻の名前も思い出せない。
どうやら顔も覚えていない。
ピンポーン。（うな垂れた）

院長が戯曲片手に登場する。

院長 「ノラ、おまえのためならおれは夜も昼も喜んで働くよ——まだどんな苦勞や不自由も忍ぶだろうよ。だが、たとえ愛する者のためにだって、名誉を犠牲にする男はないぞ。」

遠くにヤミクモの姿も見える。女たちが唐突に

叫ぶ、

女たち

「それを何十万という女はしてきたのですよ。」

院長・真坂

イップセン！（くしやみ）

パー子たち

あ、院長。

ヤミクモ

逃亡だ！ 反逆だ！ まさか！ 妻の逆走。真つ逆さまに逃げ

ていく！（去る）

院長

もうすぐ雨になる。帰りなさい。

真坂

——『天形の家』妻の名前はノラ。

パー子たち

ノラ？

真坂・パジャマ夫の名前はなんだっけ？

パジャマは、糸電話の要領で紙コップを耳に当

てる——。

院長

……ご存じですか？ イップセン。

真坂

岸田が。

院長

え？

真坂

ああ、古い友だちです。そいつ『天形の家』好きだったんです。

院長

そうですか。——覚えてませんか？

真坂

え？

院長

忘れちゃった？

真坂

何を？

院長

いえ。夫の名前。

アニキ

この人は、奥さんの名前も覚えてないの。

院長

ヘルマアです。次の創立記念祭でね。発表してみようかと。リ

ーディング。

ネオキ

練習してたの？ 昨日の今日でしょ？

院長
パジャマ
相手役が逃げちゃって。わたし、妻役に逃げられました。
もしもーし。わたしはわたしの一切を放棄する。

パー子たち
（真坂を見る）

真坂
一緒にするなよ。俺のは本当の妻なんだから。

パー子
ノラでしょ？ ノラなんでしょ？ 妻の名前。

アニキ・ネオキ
そら逃げる。

パジャマ
名前も捨てよう。立場、役割。わたしは望んで孤立する。

アニキ・ネオキ
ノラは気まま。思い通りにはできない道理――。

パジャマ
わたしは、まるでお人形だった。もうお終いにしましょう。

真坂
いっなんですか？ お祭り。

ネオキ
昨日。

真坂
え？

アニキ
しよぼかったね。

院長
え？ うそ。

パジャマ
わたしは世間に飛び出して、わたしがわたしのままに通用する
のか験さなくっちゃ。いいえ。どちらが正しいのかハッキリさ
せませす。――もしもし？

来年の準備ですか？

終わったの？ 創立記念祭。

熱心なことで。よっぽどすることないのね。

暇つぶしの劇？ それでいいの？

退屈しのぎに 『天形の家』

イップセン！（くしゃみ）

その恰好、なに？

ほっといて。落ち着くの。

わたしはわたし。お洒落は勇氣。

「わたしがこんな能なしになったのは、あなたがたのせいなの

ですわ。」

院長
あ、パー子。食堂のオバチャン、怒ってた。

パー子
バレタか……。

もう、目を瞑ってるわけにはいかないって。ケーサツに言うつ

たかが紙コップじゃないか！

根こそぎ、持っていくなよ。

ゴロニヤーゴ。

持つてる？ 返しといてやるよ。しばらく、ここには来ないほ

うがいいな。

院長
パー子たち

院長
パー子たち

院長
パー子たち

院長
パー子たち

院長
パー子たち

院長
パー子たち

院長
パー子たち

院長
パー子たち

真坂　みなさん、入院されてるんじゃない？

院長　とっくの昔に退院してますよ。健康そのもの。だろ？

パジャマ　立ちほだかる壁を壊さなきゃ。乗り越えていく。もしもーし！

真坂　（パー子たちに）なにしてるの？

院長　馴染めなかったんでしょ、世間に――。

アニキ　うまく歩けない！

院長　気のせいだよ。

ネオキ　口からじゃ、うまく栄養摂れないんだもん。

院長　嘘つけ。人並み以上。立派なアゴをしてらっしゃる。

パー子　歌いたい！

院長　スナックへ行け！

真坂　みんな、ニセモノ？

「わたしはまず自分を教育しなければなりません。」

院長　ほら――。（三百円を出す）パー子の紙コップ。

パー子　買ってくれるの？

院長　失くしちゃったんだよ、ホットライン。

世界は渦でできている。深呼吸して、くるくるパー。耳を澄ま

せば、くるくるパー。大丈夫、聞こえてくるから。

パー子は、紙コップを一個院長に渡す。

院長　ゴミと間違われて捨てられたらしいんだな。ありがとう。残り

も預かるよ。

パー子は、紙袋を院長に渡す。

パー子　マザコンなんだ。クニオちゃん。でっかいだけのフニャオちゃ

ん。

真坂　ホットライン？

もしもーし！ 「わたし、もう奇跡なんか信じません」（背を向

ける）

院長　お守りみたいなものですよ。これで。母と――。

てる。

真坂とパジャマ以外、みんな紙コップに耳を当

真坂

もしもし？

パジャマ、振り返る――。

パジャマ

「あなたもわたしもすっかり生まれ変わって、それこそ――いいえ」「わたしたちの共同生活が、ほんとうの結婚になれたら」――さようなら。

パジャマは紙コップを握り潰し捨てる。それは真坂の足元へ。

真坂はそれ拾い上げ彼方を見る――。パジャマはない。

6、

ヤミクモが血相変えて飛び込んでくる――。

ヤミクモ

てえーへんだあ、てえーへんだあ！ 真逆真が消えちゃったあ。後姿もみるみる小さく、足が速いの。ほんとは違うの。気が付いた時にはもういなかった。すみません。ここにいます。

真坂
ヤミクモ

違うの。あなたじゃない方。叛逆の。上り下りじゃなくってね。逆上がりの方が消えたの。

院長

ああ、すみません。彼女、ちよつと変わってて。

真坂

さきほど。ヤミクモさんに案内してもらって。

院長

え？

真坂

食堂へ。

パー子
院長

わたしたちが商売してたら、ヤミクモが勝手に連れてったの。だれを？

パー子たち

真坂さん。

ああ、そうだったの？ わたしもさつき、真逆さんと『冴形の家』やってたらヤミクモさんが連れ出して。

ヤミクモ

全部わたしのせいだつて言うんですか？

真坂

やってみません、『冴形の家』。

院長

え？ ああ、うん。なんか誤解させちゃった？ ごめんね。違

うの、五階の病室で。さつき、真逆さんと練習してたの。

真坂

ぼくですか？

院長 え？ ああ、うん。あなたじゃないよね。

真坂 ええ。

院長 そうでしょ？ だから、わたしは真逆さんと。

真坂 いや、だから。ぼくはやってませんが……。

院長 え？ ああ、うん。——なんだよ、こいつ。ステージめんどくせえ。

ヤミクモ 院長！ こちら、真坂さん。真逆さんのご主人です。

院長 え？

真坂 あ、そういうことか。すみません。申し遅れました。真坂です。

院長 ご主人。

真坂 妻は？ ——妻が劇の練習を？ 人形の家？

院長 ええ。

真坂 よかった。

一同 え？

真坂 元気なんですネ。よかった——。

院長 ええ。まあ……、安定されてましたね、ここんところ。

真坂 で？ どこに？

院長 本当にあなた、真逆さんのご主人？

真坂 いまのところ。——実際、彼女がどう思っているのかは、直接会って——。これから話し合う必要があるのかもしれない。

院長 マジで？ あのあ……、仕事を辞めたことを隠してた夫？

真坂 全部、ばれてる。

真坂 彼女は知ってたんですか？

院長 なんだっけ？ 肉体労働でお給料分稼いでた方？

真坂 彼女、そこまで！

院長 内見、一緒に行ってくれない？ 見積もりだけ教えろっていう？

真坂 待って下さい！ あなた、なんですか？ 彼女の何ですか？

ヤミクモ ばれた！

院長 ヤミクモさん！

真坂 ばれたってなんだ？ なにがばれた？

真坂 不倫！

真坂 この野郎！

アニキ・ネオキ しかも、馬並み！

真坂 でも、マザコンでふにやチンなんだろ？ 俺のは堅い！ カッ

チカチになる！

真坂 口では、なんとも言える！ 確かめてさせて！

院長 ちよっと待って！ 誤解、誤解、誤解です！

アニキ・ネオキ ホントは小さい？

院長 ホントに大きいの。

ヤミクモ よかった、病室に戻ってるのね？

院長 え？ そうなの？

真坂 案内しろ！

パー子たち マックス見せろ！

院長 ——この車椅子。ヤミクモさん。真逆さんは？

ヤミクモ 走って、どこかへ。

院長 どうして？

ヤミクモ わかりません。

院長 ——ふざけるんじゃない！ 真剣に聞いてます、真逆さんは？

ヤミクモ 彼女、ご主人に会えることを喜んでいました。一緒にエレベーターに乗って、地下一階の食堂へ。食堂の入口まで来た

ときに、振り返ると姿がなかった。怖くなったんじゃないでしょうか？ 彼に会ったら何から話そう、そんなこと嬉しそうに語りながら彼女、なにか思い詰めている様子もありました。でも、これ全部わたしの想像です。そんな気がするってだけの。わかりませんよ、人の気持ち？ 考え？ 自分のことだってわ

かんないのに。人のことなんてわかりっこない。君は、真逆さんを車椅子に乗せて、病室から出て行きました。違います。わたし、真逆さんと一緒に歩いて、

院長 嘘つくんじゃないよ！ 真逆さんがどうやったら歩けるんだ

ヤミクモ よ！ 寝たきりなんだよ、この八年ずっと！ どこに置いてき

院長 た！ 真逆さん、動けないんだよ、ひとりじゃ！

真坂 妻は？ 妻はいったい……。

院長 なんて来たんだよ、あんた。あんた、真逆さんの夢の中の夫で

真坂 しょ？ 彼女の骨も筋肉もどんどん溶けていってるの。同じ姿

院長 勢で置いてちや、そのままの形で固まっちゃうからね。なんと

真坂 なく人型に整えて。ほっときや、スライムみたいになっちゃう

院長 の。医学の限界。治せない——。

真坂 彼女、歩いてました！ 笑ってました！ 話してまし

院長 た！

ヤミクモ 君さあ……。俺のせいだ。君に任せたのは俺なんだから。俺の

院長 責任だよ。

真坂 わたし、嘘なんてついてません！

院長 それが君のビョーキなんだろ？ ナースの格好してるだけで、

ヤミクモ

院長

ヤミクモ

君は患者なの。それも忘れちゃった？ 君はナースじゃないの！
わかってます！ そんなこと、言われなくなっちゃってわた

院長

母は死んでます。でも、君、毎日探してくれるじゃない？ み
ーちゃんだっけ？ 娘さん？ 産んだの？ いつ？ 君、子ど
もいないでしょ？ セックスできないじゃない？ 恐くて人と
は関われないでしょ？

ヤミクモ

院長、わかってたんですか？

院長

なにが？

ヤミクモ

お母さまが亡くなったこと？

院長

当たり前だろ！ 葬儀も火葬も全部俺が段取りしたんだよ！
俺はビョーキじゃないんだよ！ 納骨だけだよ、まだ済ませて
ないのは！

ヤミクモ

わたし、院長がお母さまを亡くされたショックで。それ、
認めたくないのかと。それで、わたしは院長のお役に立てれば
と。院長、お母さん、死んでないって。

院長

そりゃ、そういうことだあってあるでしょ？ 悲しみの乗り越え
方のひとつでしょ？ でも、俺は夢と現実をごっちゃになんか
したことはないよ！ ——なにしてくれてんだよ、まったく。――
――真逆さん、死んじゃうよ！

真坂

俺のせいです。俺、妻の事、どんどん忘れていくんです。名前
も顔も。匂いや仕草。口癖、髪型、好きな食べ物。苦手な動物。
俺、どんどん、忘れていく。俺が妻の事、忘れていくから、彼
女も俺に合わせて、姿を失くす。スライムになる？ 探さなき
ゃ！ 妻はいた！ この病院に。あの壁の向こうに。妻は俺を
待っていた。――何から話そう。何も言わず、抱きしめよう。
彼女は俺のこと全部知ってるから。俺、教えてもらおう。彼女
から。彼女の事や俺の事。二人で考えていく、これからのこと。
お手伝いしましょう。見届ける。妻の務めとして。

アニキ

ネオキ

パー子

ヤミクモ

パー子たち

真坂

真坂真は俺です。

ヤミクモ

え？ あ、坂の字が違います。奥さんは逆。大逆転の。

真坂

――未知。

一同
真坂
ヤミクモ
パー子たち
真坂
パー子たち

ミチ？
そうだ、未知。
みーちゃん？
道なき道の？
得体の知れぬ妻なんです。未知との遭遇！（走り去る）
みーちゃん！（追いかける）

残ったのはヤミクモと院長

院長
ごめん。言い過ぎた。我を忘れた。取り乱した。——ごめん。

ヤミクモ
（怯えた目つきで逃げる）

院長
そんな目で見ろなよ。

ヤミクモ
（逃げる）

院長
すべて、わたしの責任です。ヤミクモさんはなにも悪くなかった。ごめん。

ヤミクモ
わたしのビョーキ。感染力ハンパないんで——。（去る）

あっちこっちから救急車のサイレンが響く。
その音は重なり合いながら増幅を続ける。
未知なる妻を探す群れの姿が確認できる——。
その行為が次景への転換となった。
ケータイが鳴る。院長が電話を取る。

院長

はい。岸田——。もしもし？ なに？ え？ うまく聞こえない？ 電波じゃない。うるさくて。——なんで？ どういうこと？ 救急車。聞こえてる。え？ そうなの？ いつ？ いま？ マジかよ。こっちからはわかんない——。わかった、すぐ戻る。ダメ！ 全部受け入れる。構わない。責任は俺が持つ。人手が足りなきゃ、患者を使え。頼めば手伝ってくれる。非常時だもの。バカ！ 元気な患者がいるだろ。すべて受け入れる。応急処置くらいならできるさ。水は出るんだろ？ 電気も？ じゃあ、大丈夫。そんなの全部どうでもいいよ！ 法律？ カンケーないって。後のことは気にするな。今だけ、目の前のことだけ。そこに集中する。そう。壁なんか全部壊しちゃえ。フエンスなら倒せ。いいよ。全部受け入れる。とにかく、すべてを受け入れる。困ってるんだから。そんなの怪我人同士でさせるときゃいいから。とにかく、すぐに戻る——。

雨の音が世界に溢れ返って……。

院長

雨まで降ってきた。ついてない――。

雨の音に交じって、猫の鳴く声が聞こえている。
院長は、壁の内側に消えていく――。

雨には浄化の力があると聞く。（この台本の作者である私は、それを強く信じている。雨は浄化の力を持っている。）

――それを信じて疑わない。

7、

地だ――。

冒頭の風景にそっくり。どこまでも続く壁の路

紙袋を抱え、コート姿のパジャマが立っている。

雨は上がっている。パジャマが歌う――。

「どれもわたしのものではなかった」

雨に流れて 消えた町

思い果たせず 崩れてく町

泣かないで 泣かないで

泣けば惨めが 舞い上がる

ニセモノの夢 掴まされ

ニセモノの恋 追いかけて

どれもわたしのものではなかった

名前も捨てた 今度こそ

思い出さない 振り返らない

呼ばないで 呼ばないで

わたしはだあれ？ だれでしょね

ニセモノの夢 掴まされ

ニセモノの恋 追いかけて

どれもわたしのものでは……

どれもわたしのものではなかった

いつからそこにいたのだろうか？ 真坂が立っている——。

人の気配に気付き、パジャマは隠れる。

真坂

——聞こえて、いる。声だけが聞こえて、いる。

パジャマ

——ゴロニャーゴ。

真坂

どこ？ どこにいる？ 隠れてないで姿を見せて。

パジャマ

夢が夢だとわかっているなら、問題はないらしいんです。夢と現実を混同すればビョーキだそうです。——けれど、夢を実現するために人は生まれ、人は暮らし、人は生きていくのじゃなかったですか？ わたしたちは夢を生きるために、ここでこうして出会ったのじゃなかったのでしょうか？ 世界は意味のないルールでわたしを縛り付ける。わたし、ずっと悔しくて、歯がゆくて。納得できぬまま、自分に課せられたルールに沿って生きてきました。

真坂

俺はね、君の敵じゃないと思うんだ——。怖がらないで。姿を見せて欲しい。俺もさ、俺もずっと悔しくて、歯がゆくて、納得できぬまま。——壁に沿って歩いてきたんだ。——聞こえてる？ 俺は君の友だちになれるかもしれない。

パジャマ

あなたにはわたしが見えませんか？ わたし、ここにます。

真坂

どこにいるの？

パジャマ

目隠しをとらないから。

真坂

俺、目隠しなんかしてない。

パジャマ

なら、見えているはず。わたし、きつと。あなたが認めたくない現実には瓜二つ。あまりに理不尽な姿をしているんです。わたしも確かにニンゲンなのに。世間はわたしをそうとは認めないでしょう。骨も肉も持たない、まるで心だけになってしまった。形のないニンゲンです。——見えてきましたか？

真坂

——触っても？ 平気？

パジャマ

恐がつてるのはわたしじゃない。あなた。

真坂

握手しよう。

パジャマ

いいわ。

真坂

手はどれ？

パジャマ

ないの。あなたが決めればいい。

真坂は。パジャマの手を取る――。

真坂 握手――。痛くない？

パジャマ 平気――。懐かしい。

真坂 ねえ？ 泣いてるの？

パジャマ 泣いているのはわたしじゃない。あなた。

真坂 抱きしめたい。

パジャマ どうぞ。

真坂は。パジャマを抱きしめる。

真坂 君の体に無数の穴が開いている。

雨に打たれたから。心無い言葉そっくりの雨に打たれ、わたしの――いいえ。わたしたちの体には無数の穴が開いている。

真坂 ――俺。抱きしめられたかったんだ……。

パジャマ あなたも弱き者なのね。――いつまで穴を覗くの？

真坂 俺が最初に覗いたのは、あの紙袋だった。

パジャマ 誰も知らない秘密の抜け穴、落とし穴。

真坂 穴だらけ――。完璧な人などいない。

パジャマ 誰もが欠陥品。そうかもしれない。

真坂 俺は、あの紙袋の中で震えていた猫だった。

パジャマ そこから何が見えた？ あなたはなにが見たい？――

――そんな目で見ないで。

真坂 猫は逃げたんだ。俺の知らぬ間に。

パジャマ わたしも逃げてきた。もう動けない。

真坂 ずっとここにいろの？ きつとまた雨が降る。

パジャマ 理不尽な現実そっくりなわたしは動けない。現実は何

かせない。

真坂 今度は俺が君の夢をみるよ。どうかな？

パジャマ お願いがああるの。――紙コップ。買ってくれない？

真坂 パー子の紙コップ？ 三百円？

わたし、生きていなくなっちゃ……。(壁に体を預け、ゆっくりと沈み込む)

真坂 買うよ。どれ？ (この中？(紙袋を覗く)――空っぽだよ。

パジャマ ――。(動かない)

真坂 眠ったの？ 疲れたんだ。よく頑張ったなあ……。おやすみ――。

パジャマ ——。(動かない)

真坂 あとで俺が食堂から盗んでくる。俺、それを君から買うよ。大丈夫。あるところから少しだけ。こっちに回してもらおうよ。ね？ だって必用なんだから。

真坂は紙袋被る。

真坂 ——泣いているのはどっちだろう？ 君かもしれない。俺かもしれない。

い。雨かもしれない。――もし、みんなに見つかって。君がまた五階の病室に連れ戻されたら。そんなときは俺、また誤解して。君を妻だと思いついで、こっそり病室訊ねたってかまわない。何度でも、何度でも……。 (紙袋を外した)

パジャマ ——。(動かない)

真坂 きれいだよ。

真坂はパジャマを抱き起し、顔に紙袋を被せて連れ去る――。
どこまでも続く壁の路地の無表情――。

8、

――風が吹いている。

紙袋を被った人の群れ。冒頭の女たちらしい。紙袋を取り、彼方を見ている――。みんな、誰かに似ている。

ネオキ 見て、見て、あそこ！

アニキ 壁の上。歩いてる！

紙袋片手に掲げて、真坂が危なっかしく壁の上を歩いていく。

ヤミクモ 風が強い！ 危なくないの？

院長 見てられない。見てるこつちがヒヤヒヤする。

アニキ 猫だもん。

ネオキ ノラだもん。

アニキ・ネオキ 平気だろ？

真坂 (眼下を見下ろし) お前らみんな、くるくるパー。

パー子 行っちゃうの？ わたしを置いて……。行っちゃうの？

真坂 俺、先に行く。馬並みのスピードで。

ヤミクモ 教えて。この壁の向こうにはなにがあるの？

院長 おーい、タマ。そこから何が見えるの？

女たち タマ？

院長 猫って、魂に似てるんだ。だから。

女たち おーい、タマあ。

真坂 俺の中から声がする。そのまま行け——と声がする。俺を呼ぶ声。

パジャマ ——そこから何が見えますか？

真坂 (壁の向こうを見て) なんにも見えない。なんにもないが見えるだけ。

女たち おーい、タマあ。こっちにおいで。

真坂 ——答えはノーだ！ ノー！

パジャマ 大きな欠伸。呑気なもんだ。

——音楽。

「ねこのあくびをみたときのうた」

目覚めてしまった 見ていた夢は思い出せない
すべては風のように すべては川のように
流れてゆくものらしい

眠っていました 描いた夢は色あせない
いつか風のように いつか川のように
めぐりあうものらしい

どこにあるのだろう わたしのふるさととは
そして帰るだろう まだ見ぬふるさとへ
そのときに 近くにあなたがいれば
確かめたい あなたの笑う声を
目覚めてしまった わたしのこころは風に(風に)風に

(風に) 舞う

どこにあるのだろうか　わたしのふるさととは
そして帰るだろう　まだ見ぬふるさとへ
そのときに　近くにあなたがいれば
眠っていました　子守歌を目覚ましにして
そのときに　近くにあなたがいれば
確かめたい　あなたの笑う声を
目覚めてしまった　わたしのこころは風に(風に) 風に
(風に)
風に(風に) —— 風に舞う

真坂は、危なっかしく壁の上を歩いて去って行く。壁の前に残された人は……。さて? ——
紙コップでも売ってみようか?

おしまい

脱稿(20190926)

歌詞改訂(20190929)

*この作品は、安部公房『密会』に想を得て創作。

*作中にはイプセン作『刃形の家』からせりふを引用した箇所があります。引用したせりふは「」にて括り、且つゴシック体にて示した。(P, 17・38〜40・42〜44)